

修士論文（要旨）

2012年1月

## 日本語教育における古典教育の有用性について

—中国Y大学における古文語法教育調査等に基づいて—

指導 佐々木倫子 教授

国際学研究科  
言語教育専攻

207 J 4906

亦野博

## 目 次

第1章 研究の経緯と目的	1
1.1 研究の経緯	1
1.2 研究の目的	2
第2章 研究の概要	3
2.1 先行研究	3
2.2 研究対象・調査方法・分析の枠組み	8
2.2.1 調査の概要	8
2.2.2 分析の枠組み	8
第3章 日本語教育における古典教育の有用性	9
3.1 有用性に関する基本的考え方	9
3.2 Y大学における古文語法教育に関するアンケート調査結果等	12
3.2.1 授業の概要	12
3.2.2 調査の実施概要	12
3.2.3 調査の集計結果とその分析・考察	14
3.2.4 調査のまとめ	41
3.3 日本の学校教育における古典教育	42
3.4 現代日本語の中の古典・文語等	45
3.4.1 現代日本語の様相	45
3.4.2 新聞コラムの中の古典・文語等	47
3.5 総合的考察	50
第4章 日本語教育における古典教育の課題と展望	51
4.1 古典教育の課題	51
4.1.1 古典教育の方法・手順の整備	51
4.1.2 古典教育の範囲の拡大	51
4.1.3 古典教育担当日本語教師の養成とテキストの作成	52
4.1.4 古典教育のより明確な位置づけ	53
4.2 今後の展望	54

参考文献

資料

## 要 旨

従来、日本語教育において、日本の古典文学（漢文を除く）に関する教育（以下「古典教育」という。）への関心は相対的に低かったといわれる。本研究は、こうした問題意識を踏まえて、(1)稿者が行った古典教育に関する学習者のアンケート調査結果、(2)日本の学校教育における古典教育の状況、(3)現代日本社会における古典・古文等の受容・活用の状況について考察し、日本語教育における古典教育の有用性とその課題と展望を明らかにしようとしたものである。

第3章の「3.2 Y大学における古文語法に関するアンケート調査結果等」では、学習者の多くが次のような考え方をしていることを明らかにした。

- (1) 学習者が広く世界の古典に親しんでおり、その中で日本古典も捉えていること。
- (2) 日本語を学ぶ以上、日本の古典に親しむ必要があることと認めていること。
- (3) 日本古典と中国の古典の間には深いものがあると認めていること。
- (4) 学習の困難さの主な理由に文法・語法等の難しさをあげつつも、作品内容等の理解に楽しさを感じていること。
- (5) 古典授業を有意義にするため、文法・語法、作品内容、作品背景等の学習など授業内容の充実を求める一方、文法教育等、教育方法の改善を求めていること。
- (6) 学習者はコミュニケーションの意義を重視しつつ、バランスのとれた日本語能力の伸長を望んでいること。

「3.3 日本の学校教育における古典教育」では、母語話者には学校教育の前後にわたり古典に親しむ機会が提供されているが、学習者の多くが学校での古典学習に困惑や困難を感じていることを明らかにした。そして、そうした古典教育の問題点を踏まえて、日本語教育における古典教育を考えるべきことを論じた。

「3.4 現代日本語の中の古典・文語等」では、古典・文語等が現代日本語の中で多用されていることを論じ、1例として新聞コラムの中の古典・文語等について調査・分析した。

「3.5 総合的考察」では、現代日本語教育と古典教育の有機的連携、総合化を進め、バランスのとれた日本語教育をめざす必要があることを指摘した。

第4章「日本語教育における古典教育の課題と展望」では、以下の課題を提起した。

- (1) 「古典教育の方法・手順の整備」をめざし、日本語教育の早い段階から古典作品等を導入するとともに、各段階の古典教育の有機的連携を図ること。
- (2) 「古典教育の範囲の拡大」をめざし、古典古文教育を中心に、その範囲を近代日本語による作品等、文学作品に限らぬ作品まで広げること。
- (3) 「古典教育担当日本語教師の養成とテキストの作成」をめざし、古典教育を担当できる教師の育成と、学習者の思考法等に適合したテキストを作成すること。
- (4) 「古典教育のより明確な位置づけ」をめざし、日本語教育における古典教育をパイリಂಗリズム研究の対象として科学的解明を進める一方、外国人市民の古典学習等、生涯学習活動への参加を拡充すること。

## 参考文献

1. 王敏東(2011)「台湾の日本語学科における文法授業の内容について—国文法・日本語教育文法・新しい日本語教育文法の位置付け—」『日本学刊 第14号 2011』115-133
2. 河上志貴子(2011)「日本人学生と外国人留学生の共学による実績と課題点の考察—京都大学国際教育プログラムにおける英語による日本古典文学の教育を通して—」『京都国際交流センター 論攷 第1号 2011.2』73-94
3. 金中(2009)「中国における日本語文語授業の工夫—現代短歌と抒情歌の導入—」東京外国語大学『日本研究教育年報 No13』97-101
4. 修剛(2004)「大学専門日本語教育の指導要綱とその役割—中国の場合—」『2004 日本語教育国際研究大会予稿集 発表2』日本語教育学会 36-40
5. 周異夫(2004)「日本語専攻課程のカリキュラム再編成における課題と取り組み—中国吉林大学日本語文学科の試みから—」『2004年日本語教育国際研究大会予稿集 発表2 (2004.8)』日本語教育学会 31-35
6. 宿久高・周異夫(2007)「日本語教育の中の文学と文化—中国における日本語教育の現状と課題—」『日本語教育』133号 日本語教育学会 28-32
7. 藩秀蓉(2010)「1920年代の中国における日本文化の研究について—周作人の日本古典の翻訳紹介を中心に—」『東京外国語大学日本研究教育年報14』
8. 高橋久子、林明子(2004)「留学生対象科目としての古典の位置付けと実践例—東京学芸大学における日本語教育の場合—」『国際教育評論』第2号 49-58
9. 春口淳一(2006)「非母語話者を対象とした古典文法授業の実践報告—学習者のモチベーション向上を目指した取り組み」李晨主編『中国における日本語教育の理論と実践研究』吉林大学出版社 56-66
10. 春口淳一(2007)「非母語話者が古典日本語文法を学習する際の問題点—現代日本語訳におけるミステーク分析から—」『長崎外大論叢第11号』109-122
11. 春口淳一(2008)「日本語学習者と古典日本語文法—学習者が求めるもの・学習者に求められるもの—」『日本語教育第139号』日本語教育学会 148
12. 春口淳一(2008)「日本語学習者を対象とする古典日本語文法テキストの課題—武漢大学出版社『日本語古典文法』を例として—」『長崎外大論叢第12号』71-84
13. 春口淳一(2009)「日本語学習者を対象とする古典日本語文法テキストの課題(3)—北京大学出版社『日語古典文法』を例として—」『長崎外大論叢第13号』131-144
14. 春口淳一(2010a)「華東理工大学出版社『簡明日本語古文教程』にみる日本語学習者のための古典日本語文法テキストの課題」『長崎外大論叢第14号』153-165
15. 春口淳一(2010b)「日本語学習者のための古典日本語教育再考—学習者・日本語教師・国語教師の視点から—」『長崎外大論叢第14号』141-152
16. 水谷修(2007)「日本語教育学の核と日本語教育」日本語教育学会『日本語教育』第132号 3-12
17. 楊金萍(2003)「中国における日本語古典教育の現状と将来」『国文学解釈と観賞』平成15年7月号 ぎょうせい 86-93
18. 渡辺愛二(1998)「日本語教育における古文学習—文語文法：英文四種の比較検討—」『言文 第四十六号』福島大学教育学部 国語学国文学会 1-10